

# 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成21年12月28日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3771100611		
法人名	社会福祉法人 サマリヤ		
事業所名	サマリヤ大川グループホーム		
所在地	香川県さぬき市大川町田面1198 (電話)0879-23-2711		
評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成21年11月12日	評価決定日	平成21年12月28日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、旧木造住宅を一部改装して使用し、広い庭には、まだ土が残っていて四季折々の花が咲き、裏庭には畑もあり、新しく入居された方は、非常に親しみやすく、ご自分の家のように溶け込むことができます。サービスにおいては、歩行困難になられた利用者の方も、日中はリビングに出てこられ、ご本人に合ったりハビリテーション、レクリエーション等が行えるよう、職員一同心がけています。利用者様一人ひとりの意思を尊重した対応を行い、安心と安全を心がけた介護支援を行っています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

香川県東部の幹線道路沿いに位置する日本家屋を活用した事業所である。利用者一人ひとりを尊重し、プライバシーを確保しつつも、利用者相互の協力がはかられる居心地のよい環境である。命名由来の「サマリヤ人の行い」を介護の原点とし、「愛、技術、忍耐」を理念に掲げ、職員全員での理念の共有、実現に取り組まれている。職員の対応は、丁寧で穏やかであり、その様子は利用者の表情にも反映されている。利用者個々の家庭環境にも配慮がなされ、特に独居、家族が遠方の利用者への支援も十分になされている。地域との連携もすすんでおり、今後、高齢化がすすむ地域の中でますます期待される役割は大きい。

## 【情報提供票より】(21年10月11日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成12年10月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	9人	常勤	2人、非常勤 7人、常勤換算 4.2

### (2)建物概要

建物構造	木造瓦葺平屋 造り		
	1	階建ての	1階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	10,000円+実費	
敷金	有( 円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

### (4)利用者の概要(10月11日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	0名	要介護2	1名		
要介護3	3名	要介護4	4名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 82歳	最低	73歳	最高	92歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	さぬき市民病院、陶山医院
---------	--------------

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「愛、忍耐、技術」の理念に基づき、管理者と職員は、日々実践しています。	理事長より常々、理念について講話があり、管理者、職員は法人の理念である「愛、忍耐、技術」の理念に基づき実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員は地域の清掃作業等に参加し、また、利用者と共に自治会の花見、ふれあいサロン等に出席し、交流を行っています。当事業所が行う交流会にも地域の方達に参加して頂いています。	自治会に加入し、清掃作業、春の花見、年数回のふれあいサロン食事会、秋祭りなどに参加している。また、グループホームの行事(春の花見、秋の祭りなど)に地域の方々を案内している。そのなかで地域とのつきあいの深まりがみられる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当施設の支援状況を、本部で制作している広報誌やホームページに掲載してもらい、また、運営推進会議の場で出席して下さっている各委員の方々に伝達し、理解を得ています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に一度、定期的に運営推進会議を開催し、出席された地域の方々に、議題の内容について報告、意見交換を行い、サービスの向上に役だっています。	地域の方々、行政、家族、事業所職員の参加のもと定期的に開催されている。前回評価時に検討されていた地域の避難場所としての活用も決議された。家族からの要望も取り入れられている。	市町村との連携もふまえ、さらに運営推進会議を活用し、課題の解決、サービス向上につながることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者からは、最新の情報がファックス、電話等で連絡がはいり、また、運営推進会議において情報交換を行い、協力関係を築いています。	日頃の連携に加え、運営推進会議において市担当者への意見が取り入れられたことにより、近隣のグループホームとの交流が密にはかれるようになった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び全ての職員が正しく理解しています。	身体拘束をしないケアについて、理解することに努めている。敷地が広いことから、玄関にも施錠しないようにし、利用者はゆったりとした環境のもと、過ごしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修、内部研修にて学ぶ機会を持っています。管理者や職員は虐待防止の徹底に日々努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修で学ぶ機会を得ています。毎月行われる担当者会議の場で話し合い、必要が発生すれば活用できるよう支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用時にご本人、ご家族に契約書の内容を分かりやすく明示と説明をし、同意を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、家族等からの不満や苦情等を知るようにしています。また、利用者のご家族の方に、運営推進会議に出席して頂き、意見をお聞きする機会を設けています。	意見箱の設置、運営推進会議への家族参加がはかられている。また、面会時や行事、家族への連絡時など、日頃から積極的に家族から要望を聞き、運営に反映させようとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者は、月一回定期的に担当者会議を開催し、管理者はじめ職員全員出席のもと、利用者に関わる問題点や改善策を話し合い、サービスの向上に反映しています。	月に一度、担当者会議において運営に関わる課題について話し合っている。一方で、業務における申し送りはされているが、職員同士が話し合う機会が設けにくい。	職員が揃い話し合える環境を整え、サービス提供に生かされることを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、毎月の担当者会議の折、職員の意見を十分に聞き、各自が向上心を持って働けるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、全ての職員が働きながら技術や知識を習得できるよう、事業所内外の研修を受ける機会を確保し、職員の育成に役立てています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、事業所のサービスの質を向上させていく取り組みをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の心身の状況を把握しながら、困っていること、不安なこと等、話をよく聴くように努め、安心を確保しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に、ご家族の方の不安、要望等については十分にお聴きするように努め、その件に関して詳しく説明し、安心して頂いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人に対してまず何が必要か、ご家族等からの意見を参考にし、できる限り最大限のサービスが行えるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は、日常生活のなかで、自分でできることは自分で行い、できない部分を職員に手伝ってもらいながら共に過ごしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方が訪問された折には、ご本人を交えて現在の状況等を報告し、必要な支援が発生すれば、ご家族の方からも協力をして頂き、一緒にご本人を支えています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が住まわれていた地域の行事等に出かけて行き、馴染みの人達とふれあえるよう支援しています。	これまで住んでいた地域への外出や、家族への年賀状送付などを行っている。本人が大切にしている仏壇を持ち込んでいる方もみられた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はリビングで自由に過ごして頂き、一人ひとりが孤立しないよう配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了した後も、ご本人やご家族からの申し出があれば、相談や支援に応じるよう努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや意向を把握するよう努めています。実現が困難な場合であっても、担当者会議等の場で意見を出し合って、解決していくよう取り組んでいます。	認知症高齢者の意向を反映できるよう本人、家族からの意向を把握しようとしている。独居、家族が遠方といった方への配慮もされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者個々の生活歴や生活環境を把握し、ご本人が自分らしく暮らしていけるよう、職員はプライバシーに配慮しつつ支援を行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員が、利用者を総合的に見つめる目を養い、日々の生活の中でご本人の状況に合ったサービスを提供しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時は、ご本人の現状やご家族等の要望を聞き、短期、長期の目標をたて、ご本人が安心して暮らしていけるよう支援しています。	本人、家族の要望を反映させた介護計画の作成、実施、評価がされている。期間に応じた見直し、また、本人の体調の変化等に応じた更新がされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子は、朝、夕の申し送り時に伝達し、日報に記録しています。身体的、精神的に変化が生じた場合は、職員間で話し合い、介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	固定的なサービスに捉われず、介護保険以外のサービスも対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の食事会、花見等の行事に参加し、また、デイサービスのレクリエーション活動にも参加し、音楽会や陶芸等を楽しんでいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域のかかりつけ医を確保しています。受診ができない場合は往診をして頂いています。また、状況に応じて、ご本人やご家族の希望される医療を受けられるように支援しています。	協力病院である地域の総合病院、診療所との連携の中で、毎月の定期受診、必要時には、24時間往診が可能となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職、看護職は共に協力し、訪問看護師等に利用者の日々の状況を詳しく伝達し、適切な受診や看護を受けられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院する際はご家族等と相談しながら、医療機関に情報を提供し、ご本人が安心して治療を受けられるように支援しています。また、早期退院できるよう病院関係者との情報交換等を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については、家族の意向を確認しながら、かかりつけ医等、ケア関係者とよく話し合って支援できるよう取り組んでいます。	利用者、家族の要望を尊重するとともに、母体である法人、協力病院との連携をはかりながら取り組むよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が応急手当に関して定期的に救命救急訓練を受けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自治会の自主防災組織に加入し、地域の人々の協力を得られるように、推進会議等で話し合っています。また、地域の避難場所のひとつに当事業所を加えて頂いています。	定期的な避難訓練の実施、地域との連携の中で災害への対策がはかられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は常に利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーが保たれるように努めています。本人の現実を否定せず、一人ひとりに合った対応を行っています。	全職員が利用者一人ひとりを尊重し、尊厳のある生活ができるようにかかわっている。その姿勢は、利用者の様子に反映され、うかがうことができた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	判断力が低下し言葉では十分に意思表示できない利用者に対しては、職員は言葉かけの工夫をしたり、表情を注意深く観察する等を行って、本人が自己決定できるように取り組んでいます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が自由に過ごせるように配慮しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装、髪型は本人の好みや個性を大切にしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	身体状況や健康面に配慮し、盛り付け等も工夫しておいしく、また、楽しく食事できるように支援しています。介助の必要な利用者の方にも、楽しく食事できるように支援しています。野菜の皮むき、下膳等を手伝って頂いています。	事業所の菜園において、利用者、職員ともに季節の野菜を栽培し食材として活用している。利用者に応じた調理、配膳等への参加がされている。また、当日の体調に応じた献立の変更にも応じている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者に合わせて食事を提供しています。栄養摂取量や水分量は一日を通じて確保できるように努めています。刻み食やお粥等、本人が食べ易いように調理しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一日に一回は歯磨きを実行し、口腔内の清潔保持に努めています。ご自分で出来ない方は、職員が介助して行っています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に声かけ、トイレ誘導をしています。ご自分でトイレへ行かれる方には、職員が後から様子を見に行き、見守り等を行い、自立に向けた支援をしています。	利用者一人ひとりの排泄の動向を観察するなかで、本人の能力、プライバシーに配慮した支援がされている。オムツを使用していた利用者がオムツを不使用となったケースもあった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的な排便誘導、水分摂取、腹部の運動等を取り入れています。また、日中は散歩等をして身体を動かしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の希望に沿うように努めています。	入浴による羞恥心、恐怖心を理解し、配慮している。利用者の重度化にも備えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はリビングでレクリエーションや体操を行ったり、外へ散歩に出たりして身体を動かし、夜、安眠できるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示通り服薬支援を行っています。心身上に変化が見られた場合は、速やかにご家族や医師に連絡しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、楽しみ事等を見出せるよう努め、生き甲斐サービスとして支援しています。タバコ、お酒もご本人の体調を見ながら、希望に沿うようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者に合わせて、買い物、外食等の支援、自治会の食事会等に参加しています。	これまでの生活の継続性をはかるうえで、利用者の希望に沿った外出を適宜おこなっている。	さらに利用者の希望をかなえるうえで、ボランティア等との連携を促進し、外出の機会をより多く得ることが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人からの要望により金銭管理のできる方には、小遣いを管理して頂き、外出時の少しの買い物に役立っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は利用者がいつでも使用できる所に置いています。手紙を書く習慣のある利用者へは、プライバシーを配慮しながら支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	本来の日本家屋の良さを活かし、落ち着いたある家庭的な雰囲気をもそのまま利用しています。	日本家屋を活用し、利用者のプライバシーに配慮し、個々の存在が感じ取れる環境である。日当たりのよい居間からは、菜園、花壇が眺められ、穏やかな表情の利用者の姿もうかがえた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広いリビングにテーブルや椅子を置き、自由に過ごせるように配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、仏壇や使い慣れた家具等が持ち込まれ、プライバシーも守られ、安心して生活できるように配慮しています。	日本家屋を活用した環境の中で、個々の利用者に応じた部屋の選択がされている。使い慣れた家具、仏壇の持ち込みもあった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の窓際に朝顔を植え、本人が眺めて楽しめるようにしています。庭に椅子を置いて日向ぼっこが出来るようにしたり、洗濯物を自分で干せるように、物干しを低くしたり等の工夫をしています。		